

# 学習指導案の書き方に関する考え方

(社会科・公民科教育法 2019年・春版)

氏名( )

## 〇この冊子の趣旨

これから、学習指導案の書き方に関する斉藤の考え方を詳しく説明します。

学習指導案の書き方は教師や学校、地域によって様々ですが、今回説明するのは神奈川県でも比較的スタンダードな書き方にある程度近いものだと思います。

ただ、出来ることならば、皆さんには、「学習指導案を書くプロセスは、自分の考えを深める良い機会・良い訓練なのだ」という実感を持ってほしいなと思います。さらに言えば、「これって書く意味あるの？」と一旦は批判的に疑う姿勢も大切だと思います。「言われたからやっている」という思考停止な状態は望ましくありません。私も、皆さんがある程度納得できるように説明したいと思いますので、腑に落ちない箇所があれば、いつでも質問してください。(直接 or メールなど何でもOKです)

また、この冊子の内容は、あくまでも斉藤が担当する「社会科・公民科教育法」の中での考え方なので、他の場面で違うルールや考え方が前提とされていた場合、その場ではその場の考え方で書いてください。昨年の授業でも似た資料を配布しているのですが、今年度版は内容が色々と修正されています。ご注意ください。

また、学習指導案のフォーマット【サンプル】は、本資料の22～24ページに掲載しています。

## 〇[はじめに]学習指導案の全体の構成について

学習指導案に書く必要のある内容の項目は以下の通りです。

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 日時</li><li>2. 学年・組・場所</li><li>3. 社会科の授業を通して生徒に獲得して欲しい力(公民的資質の育成を意識して)</li><li>4. 単元名</li><li>5. 単元について<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 単元(教材)観</li><li>(2) 生徒観</li><li>(3) 指導観</li></ol></li><li>6. 単元目標<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 単元を貫く問い</li><li>(2) 単元の具体的な目標</li></ol></li><li>7. 単元の評価規準</li><li>8. 単元の指導・評価計画</li><li>9. 本時の指導<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 目標</li><li>(2) 実現状況を判断する際の、具体的な生徒の姿</li><li>(3) 展開</li></ol></li></ol> |
|---|

これらの内容は、大まかに言えば、4～8の単元に関する内容と、9の本時に関する内容に分類することができます。単元とは、皆さんが模擬授業や通常の授業を行う1時間を含んだ、数時間の授業のまとまりのことを指します。一方で本時とは、皆さんが授業をする1時間の内容です。1・2は基本情報です。3は皆さんのこだわりを書いてもらう箇所です。

さて、なぜ本時の内容だけでなく、単元全体の内容を書く必要があるのでしょうか。それは、この学習指導案の形式そのものの中に、「授業とは、単に1時間1時間のバラバラのものではなく、数時間でひとまとまりのストーリーがあるべきものである」という前提が入っているからだと思います。そのため、皆さんは、1時間の授業を構想する際に、前後の授業との内容の繋がりなどにも注意する必要があります。模擬授業では1時間の授業しか実施しないからと言って、その時間のことだけを考えていては不十分だということです。

ひとまず、このことだけ念頭に置いておいてください。以下、詳しい説明を始めます。

## ○[はじめに]学習指導案以外の添付資料について

### 【解説】

社会科・公民科教育法の授業では、学習指導案を提出する際には、以下の5点の資料を必ず提出するようにしてください。

1. ワークシート
2. 掲示資料と配布資料(ワークシート以外)
3. 板書計画
4. 本時の授業が該当する教科書ページのコピー
5. ・教材研究報告シート

どれか一点でも提出が遅れると、提出点が無くなります。くれぐれも、提出を忘れないようにしてください。また、教材研究報告シートは、学習指導案の提出日から数日前(授業時に指定します)に提出し、斉藤からOKを貰う必要があります。

それぞれの資料の作成方法については、授業時にも触れます。

## ○[はじめに]フォントについて

基本的には、フォーマットのフォントや書体に従って書いてください。

学習指導案は公式的な書類になる場合もあるので、フォントは基本的には明朝体です。

## ○作成日、専攻、名前について

### 【該当箇所】

平成〇〇年〇月〇日  
東海大学〇〇学部〇〇学科〇〇専攻  
〇〇 〇〇 印

### 【解説】

作成した日付を書いてください。また、専攻と名前も書いてください。「〇〇」の表記自体は消してください。

名前の後の「印」の記載の上に、自分の印鑑を押した上で書類を私に提出するようにしてください。学習指導案は自分の授業の設計や構想を他者や外部に見せる公式的な資料です。そのため、印鑑を押す必要があります。社会科・公民科教育法では、その公式的な資料作成の練習という意味も込めて、提出用の学習指導案にも捺印をしてもらいます。(忘れないようにしてください。)

ちなみに、授業内で他の履修者に学習指導案のコピーを配る場合は、捺印した学習指導案をコピーして配布するようにしてください。

## ○指導案のタイトルについて

### 【該当箇所】

社会科(公民的分野)学習指導案

### 【解説】

中学校社会科の場合、「社会科(〇〇的分野)学習指導案」の〇〇の部分に、地理、歴史、公民の該当する分野名を入れてください。

高校の場合、「公民科（政治経済）学習指導案」などのように、教科・科目を対応させながら、表記するようにしてください。

## ○日時・学年・組・場所などについて

【該当箇所】

1. 日 時 平成〇〇年〇月〇日（〇）第〇校時（〇：〇〇～〇：〇〇） ←授業日  
2. 学年・組・場所 第〇学年〇組 〇名 教室

【解説】

教育実習や現場での研究授業では、この欄には、実際の日付や教室についての事実を書くことになると思います。今はその練習と思って、書いてください。

日時は模擬授業を実施する日を書くといいと思います。また、学年に関しては、分野や科目によって、大まかに想定される学年があると思います。それらも考慮しつつ書いてもらえればと思います。

## ○あなたが社会科を通して生徒に獲得して欲しい力について

【該当箇所】

3. 「社会科の授業を通して生徒に獲得して欲しい力(公民的資質の育成を意識して)」

【解説】

この記載は、教育実習で提出する学習指導案には書かなくてよい、斉藤が独自に設けた欄です。

ここでは、皆さんが社会科の授業を通して生徒に育てたい力を書いて欲しいと思っています。社会科は、公民的資質を育てる教科と言われています。新学習指導要領にも以下のように書かれています。

第2章 社会科の目標及び内容

第1節 教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な**公民としての資質・能力**の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して 涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、 自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

公民的資質が何なのかという定義は非常に難しいですが、大まかに言えば、社会の形成者としての持つべき力を指すのだと思います。第7回の授業でも言及した通り、社会科教育は「社会認識を通して、公民的資質(市民的資質)を育成する」ことが目標とされます。

これに関して、皆さんなりの言葉で、「公民的資質」の中身を考えて、それを踏まえて「社会科の授業を通して生徒に獲得して欲しい力」を、言葉にしてもらいたいと思っています。正直のところ、これに関しては、学習指導要領をそれほど参考にしなくても構いません。皆さんの考えや本音を自由に書いてほしいなと思います。要するに、「大まかに言って、社会科は公民的資質を育てるべき教科なのですが、それを踏まえつつ、皆さんが社会科教育の授業で生徒に育てたい力とはどういうものですか？」という問いに対して、真摯に向き合って、答えて欲しいなと思います。

ちなみに、唐木清志編『公民的資質とは何か』という本では、唐木氏が以下のように述べています。

筆者はよく、教職授業や講演の冒頭で、「みなさんは『公民的資質』をどのように定義しますか」と質問をする。何を質問されているのかわからず、反応がないのが常だが、それでもしばらくするといくつかの答えが出てくる。しかし、その回答は多くの場合に一樣である。多くの人が「公民的資質とは、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者に必要な資質である」と回答する。しかし、それは学習指導要領の「解説」からの単なる引用にすぎない。

自身の公民的資質を明らかにすることは、理想とすべき社会科授業の在り方を意思表示することである。社会科の歴史を紐解き、現代社会の変化を分析し、目の前の子どもたちを観察して、これからの社会科はどうあるべきかを他者に伝えるために、私たちは「公民的資質とは何か」について考える。この思考のプロセスを経ることで、個性的な社会科授業が生み出されることになる。

(唐木清志(2016)「社会科の目標としての『公民的資質』唐木清志編著『「公民的資質」とは何か——社会科の過去・現在・未来を探る——』東洋館出版社 p.11.)

つまり、皆さんが語る「社会科の授業を通して生徒に獲得して欲しい力」には、**皆さんの教育観や皆さんが今まで過ごした環境や背景などが大きく影響してくるかもしれません。私はそれで良いと思いますし、むしろ、皆さんの多様な答えを期待しています。**

また、ここで書く「社会科の授業を通して生徒に獲得して欲しい力」は、皆さんが学習指導案を斉藤に提出するたびに、内容が変わっても結構です。というか、皆さんが日々悩みながら、自身の考え方が変わって行って良いと思います。

ちなみに、先に紹介した唐木清志編『公民的資質とは何か』の本では、研究者や実践家が、それぞれが思う公民的資質の定義を様々に述べています。参考までに以下に列挙します。

磯山恭子(静岡大学教授)

「社会で起きている問題に関心を持ち、これらの問題の解決に向けて、多様な人々と協動的に話し合いながら、より良い社会の実現を目指して、社会に働きかけること」

唐木清志(筑波大学准教授)

「人とつながり、社会とつながって、望ましい未来を創り上げる力」

櫻井真治(東京学芸大学教授)

「暮らしの中にある問題を発見し、よりよい暮らしの実現に向かって、考え合ったり、行動したりしていくこと」

永田忠道(広島大学准教授)

「社会的な事象・事象に対して、一面的・二面的だけでなく、多面的・多元的な検討や考察を展開しながら、その都度の時点では暫定的ながらも、常に調整を繰り返し、自らの主義主張や行動を各自の判断で柔軟に創造することのできる市民としての姿」

前田賢次(北海道教育大学准教授)

「子どもの立場から大人と手を取り合いながら地域を学び、地域に働きかける地域の生活者としての姿」

草原和博(広島大学教授)

「子どもが自己と外界(他者、社会、科学)との間に関わりを見出すことで、新しい社会秩序を構想できること」

桐谷正信(埼玉大学教授)

「多様な人々が相互理解・承認することを通して、共生できる多文化社会を形成するために、さまざまな社会的課題を協動的に解決するための認識・技能・態度・能力」

吉村巧太郎(宮崎大学教授)

「民主主義社会の主体的な担い手として求められる資質・能力の総体であり、その中核は社会問題について民主的な問題解決をはかることのできる資質能力である」

桑原敏典(岡山大学教授)

「社会に問題が生じ、人々が対立したり衝突をした時、自分の仕事をしながら、それ以外の時間に社会(公共)のことについて考え、行動するための資質能力とそのため意欲」

永田成文(三重大学教授)

「持続可能な社会の構築を視野に入れ、現代社会に表出する諸課題の解決に向けて思考・阪大したことを表現し、自己の行動を変革しようとする態度」

國分麻里(筑波大学准教授)

「自分とは異なるものを受け入れ、その異なる側から物事を捉えようとする能力」

鈴木隆弘(高千穂大学准教授)

「社会的連帯のための資質であり、社会とつながるための資質のこと。具体的には、学級や学校・地域社会の課題解決に向け、共同・協同して行動ができること。さらには、「持続可能な社会」に向けた見通しを立て、課題解決に共同・協同して取り組むことができる資質」

これらの例からも分かるように、社会科は、社会を創る担い手であったり、社会と関わる人材に必要な力を育てることが使命だと想定された教科とも言えます。色々な考え方に触れながら、皆さんが一番シックリくるような「社会科の授業を通して生徒に獲得して欲しい力」の定義を考えて欲しいなと思っています。

## ○単元名について

【該当箇所】

4. 単元名 ○○○○○○○○ (東京書籍『新しい社会 公民』第○章○節、pp.○-○.)

## 【解説】

中学校社会科の場合、教科書の節に該当する部分の節のタイトルを〇〇〇の箇所に書いてください。その上で、教科書名(出版社も書く)と何章の何節かを表記してください。また、章や節のタイトルも書いてください。(「〇章 タイトル 〇節 タイトル」のような順序のイメージです。)

pp.の表記は単元の該当ページを指しています。模擬授業をする1時間の教科書の該当ページではなく、単元全体の教科書の該当ページを書くようにしてください。(よく間違える人がいます。)

ちなみに、「単元」というのは、中学校社会科の場合、教科書の節の部分指します。だいたいの授業では見開き1ページを1時間ペースで進めて、およそ4~7時間で1単元を終わる感じだと思います。ページによっては授業時間数を1~2時間増やすことも可能ですが、現実問題として、1ページばかりに多くの時間をかける訳にもいきません。

そのため、1単元というのは、およそ4~7時間程度の授業のひとまとまりだと思ってください。

## 【過去の履修者の例を載せます】

4. 単元名 人権と共生社会 (東京書籍『新しい社会 公民』第2章2節、pp. 44-58)

## ○単元(教材)観について

【該当箇所】

5. 単元について、の(1)単元(教材)観

## 【解説】

模擬授業を実施する単元全体の内容について、皆さんの理解している範囲での、この単元を「学ぶ意義」やこの単元の本質的内容・特徴などを書いてもらいたいと思います。

その際に、学習指導要領に該当の範囲について、どのように記載されているのかを、引用か参照して記載するようにしてください。教科書の内容と学習指導要領の内容は厳密には完全に対応はしていません。ですが、学習指導要領の「各分野の目標及び内容」という箇所を探していくと、おそらく、教科書内容に関連しそうな箇所が見つかると思います。

ただ、学習指導要領の文言だけでは分かりにくい場合が多いというか、学習指導要領の文章だけでは、誰が読んでも分かりにくい(苦笑)説明になる場合が大半です。そこでなのですが、皆さんは、学習指導要領の文章も引用・参照しつつ、学習指導要領を皆さんが解釈して分かりやすく書いた記述を書き添えておくと良いと思います。いずれにしても、この単元はどのようなことを学ぶ必要がある範囲なのか、どういう意義があるのかについて、指導要領を踏まえつつ、皆さんの考えを読者に分かりやすくまとめる必要があります。

それに加えて、皆さんが「この単元をなぜ学ぶ必要があるのか？」と仮に生徒に聞かれたときに、答えられるような、皆さんなりの理解を書けると更に良いと思います。正直なところ、学習指導要領を基に説明しただけでは、皆さんの中でシッカリ行かないのではないかと思います。学習指導要領や教科書の内容も熟読した上で、プラスアルファで、自分なりに、なぜこの単元を学ぶ必要や意義があるのか、何を学ぶべき単元なのか、これらについて納得をもって説明できるような文章を書いてほしいと思います。ちなみに、斉藤はこの「単元観」に結構こだわるタイプなので、皆さんが自分と向き合って納得のいく単元観を書いてくれることを期待しています。

また、本単元の皆さんなりの指導方針については、後述の「指導観」に記載してもらいますので、ここで書く必要はありません。この「単元(教材)観」では、より客観的な意味で、この単元にどのような価値や意義があるのか、どのような内容によって構成されているのか、などについて書くようにしてください。

#### 【過去の履修者の例を載せます】

##### 5. 単元について

###### (1) 単元(教材)観

本単元は中学校学習指導要領(公民的分野)の2の「C私たちと政治(1)人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」にあたる。基本的人権とは何かを具体的に理解することで、様々な個性を持つ人々と共生する社会を目指すために重要な単元である。

本単元の学習では、私たちが自由かつ個性を尊重された社会を過ごしている基本的人権の保障とはどのようなものであるか、また基本的人権とは具体的にどのような権利のことであるのかを学ぶと同時に、一つ一つの権利を保障することはなぜ必要なのか、どこまで国が保障すべきかを考察し、表現することが重要である。

#### 【コラム】社会科・公民科教育法1(2019年春)の授業内容との繋がり

##### ～なぜ、その単元(社会科学や歴史)を学ぶ必要があるのか～

「社会科・公民科教育法」の第7回目の授業では、「学問の教育か?社会の教育か?」と題して、議論を行いました。社会科の意義については、学問的な意義を重視する立場と、現実的な意義(現代社会理解のための意義)を重視する立場など、いくつかの立場に基づいた考え方があります。その議論と少し似ているのですが、「単元(教材)観」を書く際は、「この単元って、なぜ学ばないといけないの?」と他者に聞かれている場面を想定して、分かりやすい答えが書けるようにすることが理想です。新学習指導要領では、「何ができるようになるのか」の視点が求められています。その単元を学んだ先に、どういう意義があり、何ができるようになるのか、学んだ結果、どういう意味があるのかという点について、他者を説得する気持ちで書くようにしてください。少なくとも、自分が納得できていないのに、その場しのぎの気持ちで、単元の意義を書かないようにして欲しいと思います。

#### 〇生徒観について

【該当箇所】

5. 単元について、の(2)生徒観

##### 【解説】

仮に、皆さんが教育実習や学校現場で働いていれば、自然と書ける内容だと思いますが、皆さんにとっては架空の状況を設定する必要があります。

**必ず書いてほしいのは、この単元を学ぶにあたり、生徒が既に過去に学習しているであろう既習事項についてです。**例えば中学校公民の日本国憲法の単元を扱うのであれば、歴史的な分野で既に日本国憲法の大まかな話は聞いているはず。また、小学校社会科でも「わたしたちのくらしと日本国憲法」という単元があります。つまり、中学校社会科の公民的分野を学ぶ際に、生徒は既に日本国憲法について、何度も耳にしているし学んでいることが想定されます。既習事項とはこのようなことを指します。**「生徒観」の欄には、これらの既習事項を必ず書いてください。これらのことを学習指導案に書くためには、必然的に、皆さんは、自分が教える教科書以外の教科書も確認する必要があると言えます。**

生徒が何を習っていて何を習っていないかを皆さんが確認することで、授業準備がしやすくなると思

います。(仮に生徒が同じ内容を過去にどこかで学んでいるとすれば、説明を少しだけ省略することも可能かもしれません。)

また、生徒が小学校・中学校で学んだ既習事項だけでなく、日頃の中学生の生活経験から考えて、当然知っているであろう知識についても、単元と関わるようであれば書いてください。例えば、生徒はメディアリテラシーという言葉を知らなかったとしても、SNS で情報が拡散されることの怖さについては何となく知っているかもしれません。また、選挙制度については詳しくなくても、選挙演説をする政治家や選挙カーが走っている風景を見ている生徒はいるかもしれません。そんなイメージです。

また、生徒の実情に関しては、皆さんの想像力で架空の設定を少し作る分には構いません。生徒の実態を想定しながら授業を作る方が授業作りしやすい人もいるでしょう。ただ、あくまでもこれは架空の設定になるので、生徒観の記述の中心になるのは、「既習事項」の説明だと思ってください。

#### 【過去の履修者の例を載せます①】

##### (2) 生徒観

本学級の生徒は、男女間の協力関係等に大きな課題はなく、社会科の授業への興味・関心や授業態度は比較的良好である。真面目な生徒が多く、教師の発問に対しても、意欲的に参加する姿勢が見られる。小学生の時に、国会議事堂に社会科見学に行った生徒が多く、裁判所についても大まかな内容は理解していると共に足を運んだことがある生徒が多い。また、中学校の歴史でも日本国憲法について学習しており、前回の単元である民主政治に対しても積極的に学習していたことから、政治に対しての興味・関心が高いと言える。

#### 【過去の履修者の例を載せます②】

##### (2) 生徒観

本学級の生徒は、非常に活発であり、積極的に自分の意見を発表したり、指示に従って作業をしたり姿が多く見られる。そのため、クラス全体で授業を進めることもグループワークで授業を進めることも可能であるが、グループワークの方が多様な意見が出るという傾向がある。

生徒は、地理的分野・歴史的分野でASEAN・NISEなどの単語を目にしていたり、EU・領域・領土問題などについての概要を学んでいたりしている。また、小学校第6学年の社会科において、国際連合をはじめとする国際機構の働きについて学んでいる。さらに、公民的分野(第2章 第1節)で自衛隊が平和維持活動に貢献していることについて学んでいる。しかし、効率・公正という視点から国際社会を見たり、問題点を考えたりは、ほぼしていないと思われる。

#### 【コラム】社会科・公民科教育法1(2019年春)の授業内容との繋がり

##### ～なぜ、既習事項を把握する必要があるのか? : 第3回・第8目の授業より～

「社会科・公民科教育法」の第3回目の授業で、「深い学び」「学びの深まり」の考え方にいくつかの種類があることを説明した後に、「知のネットワーク化」の話をしました。

知のネットワーク化というのは、生徒自身が持っている経験や知識が有意味化されていく(有機的につながっていく)プロセスを重視した考え方です。このような知のネットワーク化を生徒に促すためには、生徒が既にどのような知識を持っていて、そこに新しい知識を獲得させることで、どういった化学反応が頭の中で起きるのかを予想することが必要になると思います。その予測の積み重ねによって「深い学び」も起こってくると思います。

また、学習指導案の本時の展開には、発問と生徒の答えを書く必要がありますが、これらを考える際にも、生徒の既習事項を把握できている方が、反応を予測がしやすくなると思います。

### 補足:気になる人に向けて①

#### ～生徒の既習事項に関する知識を期待して本当に良いのか?～

皆さんも経験したことがあると思いますが、過去に学んだからと言って、学習者はそれを覚えている訳ではありません。暗記した大半の知識は数年で消えてしまいます。なので、生徒の既習事項の知識を過度に期待して授業を作ると、木っ端みじんになる可能性があります。

ただ、そういった問題は、学校現場に出たから実際に直面し学んでいく内容だと思います。実際、仮に生徒が既習内容を覚えていないとしては、教員側が生徒の既習事項を把握していることが重要であることには変わりはありません。

この社会科・公民科教育法 1 では、小学校と中学校の社会科の関係や、中学校の地歴公の関係、中学と高校の関係などにも意識をもって欲しいと思っているので、「既習事項」を重視して、生徒観を書いて欲しいと思います。

## 〇指導観について

【該当箇所】

5. 単元について、の(3) 指導観

### 【解説】

ここでは、本単元の中で、こういった指導方針を採っていくのかを具体的に書いてください。本単元の意義やねらいは「単元(教材)観について」で既書いていると思いますし、その授業を受ける生徒の実情についても「生徒観」に既書いていると思います。そこで、この「指導観について」では、そういった生徒に対して、単元全体を通してこういった指導をしていくのかについて、大まかな方針や構想について説明してください。つまり、「単元(教材)観について」「生徒観」「指導観について」の3つの項目は、それぞれ関連しつつも、別々の内容を書く必要があります。文章が被ってしまっている場合は、意識的に違う内容を書き分けるように工夫・意識してください。

### 【過去の履修者の例を載せます①】

#### (3) 指導観

本単元では、政治分野の地方自治をテーマとして扱う単元である。仕組みや役割については、生徒がイメージしやすいように、身近な題材を活用したり、既習内容である国政の仕組みとの共通点や相違点を見出したりしながら授業を進めていく。身近な題材については、学校周辺の地域の実情や、生徒の生活の中にあるものを授業の題材としてあげることで、生徒が理解しやすいように指導していく。さらに、住民自治という地方自治の基本的な考えに触れられるようにロールプレイングを実施する時間を設けるなど、生徒が住民自治に積極的に関与できるような基盤を育成する指導もあわせて行っていく。

### 【過去の履修者の例を載せます②】

#### (3) 指導観

世界全体としてみる本単元においては、生徒それぞれが問題を身近に感じることのできる工夫が重要となる。組織やルールの必要性について、発問や視覚教材、資料から学び取らせられるようにする必要はある。また、主権を担う一国民となる生徒たちに、日本が世界にどのような立場で向き合うべきなのかを考えさせる良い機会であるため、本単元では一貫して多面的・多角的な視点から世界の問題を捉えさせることに留意しておくべきである。

さらに、この単元だからこそ、特にこだわって取り入れたい指導方法や学習方法などについても言及できることが望ましいと思います。繰り返しになりますが、この欄は、あなたの指導観一般や教育観一

般を書くのではなく、「本単元における」あなたの具体的な指導観を意識的に書くようにしてください。

## ○単元を貫く問いについて

【該当箇所】

6. 単元目標の、(1) 単元を貫く問い

【解説】

ここでは、皆さんが模擬授業をする1時間の話ではなく、この単元全体を通して、生徒が一貫して考えられるような包括的な問いを書いてください。「問い」なので、基本的には疑問形の文章にして欲しいと思います。

ちなみに、この「単元を貫く問い」は、教育実習先で書くようは求められないかもしれませんが(最近の研究校などでは書く学校も増えてきています)。ただ、単元を貫く問いを設定しないと、単元全体の繋がりが弱くなり、1時間1時間の授業内容がバラバラ・細切れになってしまう恐れがあります。そういったことを避けるために、単元全体を通して、考えられる大きな問いを皆さんには立ててもらいます。単元を貫く問いは、毎時間の授業で提示するわけではなく、単元の導入やまとめの場面で提示されることが多いです。

参考までに、内藤圭太(2015)『単元を貫く「発問」で作る中学校社会科 授業モデル 30』明治図書。では、単元を貫く問いの条件として、以下の5つが挙げられています。

1. 単元を通して追究できるものであること
2. 学問的な学びにつながり、社会の形成者の育成にも寄与するものであること
3. 生徒に単元全体の学習に見通しを持たせ、探究したいと思わせることができるものであること。
4. 各授業の主発問を導くものであること
5. 単元全体を振り返る際に、機能するものであること。

さらに内藤(2015)では、次のような単元を貫く問いが例示されています。皆さんの学習指導案を作る際の参考にしてみてください。

【地理的分野】

- ・世界地図は何のためにあるのか？(単元名：世界の地域構成)
- ・住居を高床にする理由の違いに迫ろう。(単元名：世界各地の人々の生活と環境)
- ・アフリカ州のイメージとは？(単元名：アフリカ州)
- ・日本が南米を苦しめる？(単元名：南アメリカ州)
- ・日本は世界からどのような国に思われているのか？(単元名：世界と比べた日本の地域的特色)
- ・交通網の発達の影響にはどのようなものがあるのだろうか？(単元名：中国・四国地方)
- ・果物を生産している土地の共通点を探ろう。(単元名：中部地方)

【歴史的分野】

- ・中学生はなぜ歴史を学ぶ(ことになっている)のか？(単元名：初回授業)
- ・なぜ昔のことがわかるのか？(単元名：古代文明)
- ・古代の人々はどのように人々をまとめたのか？(単元名：古代までの日本)
- ・武士が恐れていた勢力とは？(単元名：中世の日本)
- ・なぜ鉄砲とキリスト教が伝わったのか？(単元名：近世の日本)
- ・江戸時代のイメージとは？(単元名：江戸時代の成立と鎖国)
- ・なぜ江戸時代は停滞の時代なのか？(単元名：産業の発達、江戸幕府の改革)
- ・なぜアメリカからペリーがやってきたのか？(単元名：近代の日本と世界)
- ・江戸時代のおかしなところを考えよう。(単元名：明治時代)
- ・日本人が知らない日本の歴史はあるのか？(単元名：日清・日露戦争と近代産業)
- ・話し合いによる政治を実現するためには？(単元名：第一次世界大戦と日本)
- ・なぜ民主的な国家から独裁者が生まれるのか？(単元名：世界恐慌と日本の中国侵略)
- ・なぜアメリカでは原爆正当論が唱えられるのか？(単元名：第二次世界大戦と日本)
- ・「戦後」という言い方は相応しいのか？(単元名：現代の日本と世界)
- ・大人に、最も印象的な出来事をインタビューしてみよう。(単元名：大人に、最も印象的な出来事とインタビュー)

してみよう)

公民的分野

- ・ 少子高齢化は民主主義社会の課題か？(単元名：現代日本の特色)
- ・ 白と青、柔道の国際化を考えよう。(単元名：私たちと現代社会)
- ・ うまれながらとはいつからか？(単元名：日本国憲法)
- ・ 選挙が違憲だと何が問題なのか？(単元名：政治)
- ・ なぜ個人商店が少なくなったのか？(単元名：市場のはたらきと経済)
- ・ なぜお金を作ってはいけないのか？(単元名：金融、財政)
- ・ フリーターという生き方を考えよう。(単元名：労働)
- ・ 日本は国連安保理の常任理事国になるべきか？(単元名：私たちと国際社会の諸課題)

## 【コラム】社会科・公民科教育法 1(2019年春)の授業内容との繋がり

### ～なぜ「単元を貫く問い」を設定すべきなのか～

これまでの授業の中で「学びの目的意識を共有する」といったことを何度か話してきたかと思います。「なぜ、この内容を学ぶ必要があるのか？」「なぜ、今日の授業を受けなければいけないのか？」そういった実感を学習者が感じるためにも、「授業の目的意識」を共有することが大切になってきます。これらは、「主体的な学び」を実現するためにも重要です。

単元を貫く問いを設定する意義は、学習者に対して、この「学びの目的意識」をしっかりと意識させることにあります。なぜ、前回の授業の後に今日の授業があるのか？それを理解するためには、大まかに単元全体の学習目的であったり、単元全体で解決したい問いが見えていないといけません。

## ○単元の具体的な目標について

【該当箇所】

6. 単元目標の、(2) 単元の具体的な目標

【解説】

この単元全体を通して、達成したい目標について書いてもらいたいと思います。これらの目標は、これまでに書いた「単元について」の内容を意識して書いてほしいと思います。「目標」という表現をすると、少し曖昧に聞こえてしまう可能性があります。要するに「単元の具体的なゴールの姿」を設定することだと思ってください。

**ゴールとしての目標を掲げる以上、単元を通して達成できたかどうかを判断できるような、ある程度の具体性をもった目標が望ましいと思います**(どこがゴールか分からないようなマラソン大会を誰も走りたいとは思いません)。そして、目標の書き方は様々にありますが、出来ることならば、適当にふんわり書くのではなく、皆さんのこだわりを出しつつ、具体的に書いてほしいです。

いずれにしても、この単元を通して、最終的に生徒にどういった力を付けるのか、どうなることを想定・期待しているのか、を具体的に書くようにしてください。逆に言えば、**この目標がうまく書けないということは、この単元についての理解が不十分だと思われる**(ゴールの正確な位置を把握していないマラソンコースで、高い成果を収めたいと発言する人がいたとすれば、それが自己矛盾している気がします。成果を上げたければ、事前調査をしっかりとすべきです。)

また、この目標を書く際には、学習指導要領で該当すると思われる内容も参考にすると良いと思います。さらに、この「単元の具体的な目標」については、「単元を貫く問い」の内容をうっすらとでも意識して書くことができると良いと思います。

【過去の履修者の例を載せます】

6. 単元目標

(1) 単元を貫く問い

基本的人権を保障することは私たちの生活でなぜ必要か。

(2) 単元の具体的な目標

具体的な権利や法律から基本的人権を保障することはなぜ重要かを理解し、最終的には現在の社会が十分に人権を保障されているかまで考えられるようになる。

補足:気になる人に向けて②

～単元の具体的な目標の文末表現はどうすべきか?～

なお、単元の具体的な目標は、「単元(教材)観」の内容を意識できていれば、評価観点に合わせた文末表現などに特にこだわらなくても構いません。要するにこの単元でゴールにしたい目標は何なのかをしっかりとイメージして、文章にしてもらえれば、それでOKだと思います。

例えば、野球の最終的な目標を設定するとすれば、「足腰を鍛えること」「筋力を鍛えること」「打撃力を鍛えること」等には設定せず、「ゲームで良いプレーをすること」「試合で勝つこと」等の設定をしたいと思います。発想としてはそれと同じです。単元全体の単元目標に評価規準の文末表現を意識した記述が出てきてしまうと、「足腰を鍛えること」が最終目標になったかのような誤解が生まれる危険性があります。

○単元の評価規準について

【該当箇所】

7. 単元の評価規準

評価の観点	評価規準
社会的事象への 関心・意欲・態度	
社会的な 思考・判断・表現	
資料活用 の技能	
社会的事象 についての知識・理解	

【解説】

ここでは、単元の評価規準を4つの評価観点に基づいて書いてもらいます。社会科では、大まかには、4つの観点に基づいて授業を作ることが求められています。なお、新学習指導要領では観点が3つに変更になります。後期の社会科・公民科教育法2の模擬授業では3観点到合わせた指導案も作ってもらいます。

では、なぜ4つの観点に基づいた規準を作る必要があるのか?それは、単元の目標を達成するために往々にして、複数の能力だったりスキルが必要になってくるからです。皆さんの部活や趣味でも、何らかの大きな目標(例えば、県大会に勝つとか、100mで〇〇秒内のタイムを出すとか)を達成するためには、複数の能力が必要になると思います。斉藤が好きな囲碁だと、「定石に関する知識」「基礎的な読みの力」「盤面全体を見通す大局観」「勝負強さ」など、どれも必須です。ただ、それぞれの能力やスキルは少し異なりますし、それを獲得する方法も少し違ってきます。部活動において、複数の力(持久力、瞬発力、筋力、実践力などなど)を育てる必要があるのと同じように、社会科の授業でも、複数の力を育成するための観点が設定されている、というわけです。社会科で求められている4つの観点は、次の通りになります。

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。
社会的な思考・判断・表現	社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に判断している。
資料活用の技能	社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択し、効果的に活用している。
社会的事象についての知識・理解	社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。

さて、学習指導案の「単元の評価規準」の表作成の仕方についてですが、まず、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 社会】』を参考にして、自分が扱う単元に該当する内容を探してください。同書は、インターネットで以下の URL からダウンロードすることができます。  
[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/chuu/O2\\_chu\\_shaki.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/chuu/O2_chu_shaki.pdf)。

ちなみに、高校の公民科版は、以下の URL です。

[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/kou/O3\\_kou\\_koumin.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/kou/O3_kou_koumin.pdf)

同書の中で自分が単元の内容に近い内容を見つけてください。そこに評価規準の作成のための文章例が沢山例示されていると思います。その文章例の中から、比較的シックリくる文章を1つ選んで、とりあえず学習指導案の「単元の評価規準」の表に埋めてみましょう。文章は始めのうちはまるまるコピーでも構いません。より望ましいのは、文章の前半部分を、単元の内容や皆さんのこだわりに応じて、少し修正することです。その際に、文章の前半は書き換えてもよいのですが、文章の文末表現は維持するようにしてください(少なくとも当面は)。

【過去の履修者の例を載せます】

7. 単元の評価規準	
評価の観点	評価規準
社会的事象への関心・意欲・態度	様々な場面で起こる経済的な問題について関心を持ち、その問題を身近なものとして捉え、対策について意欲的に追究することができる。
社会的な思考・判断・表現	金融の仕組みについてよく理解したうえで、実際に起こりうる経済問題に対する金融政策について多面的・多角的に考察し、発表することができる。
資料活用の技能	グローバル化の進む金融や為替の動きについて、資料から適切に読み取り、まとめることができる。
社会的事象についての知識・理解	金融や銀行の仕組みについて理解し、経済活動を円滑に循環させるために行われる日本銀行の金融政策や、その役割についての知識を身に付けている。

## ○「単元の指導・評価計画」の全体のフォーマットについて

【該当箇所】							
8. 単元の指導・評価計画 (○時間扱い)							
時	ねらい	学習活動	関	思	技	知	評価規準
1 本時				○			関 評価規準・・・
2							
3							

## 【解説】

「単元の指導・評価計画」は、「ねらい」「学習活動」「評価規準」の3つのパーツで構成されています。後述するように、この3つのパーツに書く内容が重複しないように意識して書いてほしいと思います。

**この「単元の指導・評価計画」とは、要するに、単元の全時間の授業の大まかな予定を示す場所だと思ってください。**いわば、単元のゴールに向けて、毎時間でどのような練習のねらいを設定し、具体的な練習メニューを組み、フィードバック(評価)をするか。それを書くのが、この「単元の指導・評価計画」です。

そして、「単元の指導・評価計画」には、太枠を囲い、「本時」という単語を表に書きこむ場所があります。これは、単元の中で皆さんが授業を行う1時間の授業の箇所を示すものです。単元の中で、模擬授業をする箇所に、太枠と「本時」を記入してください。(指導案の提出時に、初期設定のままになっている人が時々いるので、注意してください。)また、(〇時間扱い)の「〇」の部分はこの単元全体の時間数を記入してください。

また、後述するように、「ねらい」「学習活動」「評価規準」の3つのパーツに書く内容が重複しないように意識して書いてほしいと思います。

各パーツの詳しい内容は後述します。また、各パーツのサンプルは本資料15ページに記載しました。

## ○単元の指導・評価計画の評価観点の記入欄について

【該当箇所】							
8. 単元の指導・評価計画(〇時間扱い)							
時	ねらい	学習活動	関	思	技	知	評価規準
1				○			関評価規準・・・
2							
3							

## 【解説】

1週間の練習メニューを組む際に、全く同じ練習内容を毎日続けるのではなく、日によって練習メニューを変えたり、重点を置く練習を日ごとで変えることがあります。その発想と同じように、社会科授業の単元の指導・評価計画を設定する際にも、各時間ごとで、重点を置くポイントや育てたい力が異なり、単元全体で最終的にトータルな力を育てる必要があります。

その際、各時間に該当する評価の観点「関」(関心・意欲・態度に該当)、「思」(思考・判断・表現に該当)、「技」(技能に該当)、「知」(知識・理解に該当)を選んでください。一般的に言えば、1時間の授業では観点は1つぐらいを割り当てる場合が多いです。

また、1つの単元内に、評価観点はそれぞれ少なくとも1度はカバーするようにして欲しいと思います。部活の練習メニューと一緒に、1単元を通して特定の観点を全く練習しないというのは、あまり良くないというのは感覚的にも分かると思います。現実の社会科の授業では、1年間をかけて、各観点の資質能力を段階的に育てていくこととなります。そういう意味でも、1単元で必ず1度は全ての評価観点を割り振るようにしてください。

一般的に言うと、最も評価がしにくい観点は、「関心・意欲・態度」だと言われています。ここで言う関心・意欲・態度とは、生徒が単に積極的に話し合っていたとか、挙手していたとか、そういった分かりやすい結果ではないことに留意しておいてください。詳しくは、先述の『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 社会】』などを参考にしてみてください。

そして、関心・意欲・態度の評価観点は、一般に、単元の最初か最後の授業、もしくはその両方の授業に設定するのが良いとされます。(北俊夫『“知識の構造図”を活かす問題解決的な授業づくり：社会科指導の見える化＝発問・板書の事例研究』。内藤圭太の『単元を貫く「発問」で作る中学校社会科 授業モデル 30』より)

### ○単元の指導・評価計画の「ねらい」について

【該当箇所】							
8. 単元の指導・評価計画 (○時間扱い)							
時	ねらい	学習活動	関	思	技	知	評価規準
1				○			思評価規準・・・
2							
3							

#### 【解説】

ねらいは単元の各時間の授業に関する目標を指します。評価規準や評価観点との対応関係がある程度は求められます。(例えば、サッカーのフォーメーションの知識を教える練習をする際に、その練習のねらいが「足腰を鍛える」「筋力をつける」では不自然ですよね。その意味で、評価の観点と「ねらい」には、大まかな関連性が求められます。)

ただ、評価の視点に縛られすぎず、ねらいとして分かりやすいように、第三者に分かりやすいような表現を工夫して書いてください。

### ○単元の指導・評価計画の「学習活動」について

【該当箇所】							
8. 単元の指導・評価計画 (○時間扱い)							
時	ねらい	学習活動	関	思	技	知	評価規準
1				○			思評価規準・・・
2							
3							

#### 【解説】

学習活動に関しては、授業の大まかな流れが分かるように、目に見える客観的な学習活動を書くようにしてください。例えば、「〇〇の資料を読み取る」「〇〇について話し合う」「〇〇について自分の意見を書く」などは全てが学習活動に含まれます。

簡潔な文章が求められますが、可能な範囲で、授業の流れがイメージできるような具体性が欲しいと思います。

### ○単元の指導・評価計画の「評価規準」について

【該当箇所】							
8. 単元の指導・評価計画 (○時間扱い)							
時	ねらい	学習活動	関	思	技	知	評価規準
1				○			思評価規準・・・
2							
3							

#### 【解説】

先ほど、単元内の各時間の授業に評価観点を割り振ったと思いますが、その割り振った評価観点について、「何がどのように出来ていれば OK なのか?」という評価の規準を具体的に書いてほしいと思い

ます。

前の方で「単元の評価規準について」については記入をしていると思いますが、ここで記入して欲しいのは、各時間の具体的な授業内容を前提とした場合の、具体的な評価の規準についてです。そのため、単元全体の評価規準よりも、より具体的な内容になると思います。評価規準を書く際の文末表現や観点に対応した趣旨の内容を書くことに関しては、「単元の評価規準」とおおよそ同じものだと思ってください。

【過去の履修者の例を載せます】

8. 単元の指導・評価計画（5時間扱い）							
時	ねらい	学習活動	関	思	技	知	評価規準
1	産業や科学技術の発展による社会の変化に伴い、主張されるようになった新しい人権について理解する。	社会の変化によって主張されるようになった、環境権、自己決定権に関する具体的な事例をあげて、その内容についてワークシートにまとめる。				○	<b>知</b> 社会の変化によって主張されるようになった新しい人権の環境権と自己決定権について理解し、その知識を身に付けている。
2	情報化の進展による社会の変化に伴い主張されるようになった新しい人権について理解する。	知る権利、プライバシーの権利、インターネットにおける人権について具体的な事例をあげて、その内容についてワークシートにまとめる。				○	<b>知</b> 社会の変化によって主張されるようになった新しい人権の知る権利とプライバシーの権利、インターネットにおける人権について理解し、その知識を身に付けている。
3 本時	権利をめぐる対立の実例から、基本的人権における課題について考察する。	プライバシーの権利と表現の自由の対立の実例から、両者の権利における課題についてグループワークを通して意見を出し合い、考察する。		○			<b>思</b> 権利をめぐる対立から、基本的人権に関する課題について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
4	国際社会における人権保障について、日本国憲法と比較しながらその特徴を読み取り、まとめる。	世界人権宣言や国際人権規約と日本国憲法を比較し、保障されている内容の共通点や相違点を見出し、その特徴をワークシートにまとめる。			○		<b>技</b> 世界人権宣言や国際人権規約の特徴を日本国憲法の比較から情報を適切に読みとり、まとめている。
5	社会の変化に伴って主張されるようになった新しい人権について意欲的に追究する。	新しい人権を一つ取り上げて、新聞記事やニュースをもとに、現代社会における課題について新聞にまとめる。	○				<b>関</b> 現代社会における様々な課題と新しい人権がかかわっており、暮らしやすい社会づくりに影響を与えていることを追究して

**補足:気になる人に向けて③**

**～「ねらい」「学習活動」「評価規準」の内容は似てもよいのか?～**

結論から言うと、同じような内容を何度も書くのは価値が低いと私は考えます。

3つのパーツの中で、1番差別化が図りやすいのは、学習活動だと思います。これは、誰が見ても分かるような客観的な活動を書くようにします。

その上で違いが分かりにくいのが、「ねらい」と「評価規準」です。イメージとしては、「ねらい」を達成するために、評価の観点からみると、何が具体的に達成できていけばいいのか?という関係性かと思えます。そのため、「ねらい」は「評価規準」よりも、やや抽象的で大まかな表現で良いと思えます。

**○本時の指導の目標について**

【該当箇所】

9. 本時の指導 (○/○)

(1) 目標

**【解説】**

ここでは、既に説明済みの、「本時のねらい」や本時に選んだ評価観点などを意識して文章を書くようにしてください。例えば、本時の評価観点として、思考・判断・表現を選んでいるにもかかわらず、仮に本時の目標が「～の知識を身につけること」となっていると、評価観点と本時の目標が一致していないと言えます。

そして、「単元の指導・評価計画」における本時の「ねらい」とここでの「本時の指導の目標」の内容があまりに違うことを書いていると、論理的におかしいと言えます。本時の目標を書く際には、「ねらい」と「評価規準」などと整合性がとれるように気をつけて下さい。

**【コラム】社会科・公民科教育法 1(2019年春)の授業内容との繋がりを**

**～「目標」は、ぜひ「ツッコミ」を踏まえて書いて欲しい～**

「社会科・公民科教育法」の第8～10回の授業では、教科書内容に「ぎもん・つっこみ」を投げ掛けてもらっています。同時に、特定の教科書ページにおける「永続的な理解」の内容を書くようにも求めています。これらの訓練は、「教科書の該当範囲で、1番教えるべきことは何か?」ということに、皆さん自身に敏感になってもらうためにやっています。

本時の指導の「目標」を書く際には、該当する教科書ページの「永続的な理解」の内容は何なのかをしっかりと考えてから、目標を書くようにしてください。目標というのは、学びの最終ゴールを設定するということもあり、とても重要な作業です(繰り返しになりますが、ゴールの場所がはっきりしないマラソン大会など、誰も走りたいと思いません。ゴール設定というのはとても重要です)。当てずっぽうでザックリと書くべきではありません。

しっかりと教科書研究や教材研究をして、内容を自分なりに理解してから、目標を書くようにしてください。

**○本時の指導の「具体的な生徒の姿」について**

【該当箇所】

(2) 実現状況を判断する際の、具体的な生徒の姿

	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C) と判断した生徒への具体的な手立て
観点			

【解説】

既に本時のために選択している評価観点があると思います。この欄は、その評価観点に対応するように意識して、「観点」と書かれている欄に「思」「知」「技」「関」等を書き、その他の欄に、生徒が何をどのようにできているのかという、生徒の具体的な姿を書き込んでください。

例として、次のような記述例を示します。

「現代社会の見方考え方」の場合			
	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C) と判断した生徒への具体的な手だて
知	決まりを守る意味に留まらず、「個人の尊重」「みんなが納得して決める」との言及から、決まりの意義を踏まえた記述があると判断できる、	決まりを守ることによって、私たちの生活がなり立っていることを記述している。	次時の最初に、前時の振り返りとして、「十分満足」「おおむね満足」と評価した生徒の記述を紹介する。可能であればコメントを求めたい。

これらの内容を書く際に特に気を付けて欲しいのは、「A、Bの記述内容を第三者が読んでも、理解できるように書き分けること」「Cの手立てについて、第三者が読んでも、理解できるような文章で書くこと」です。例えば、もしも仮に、Aが「決まりの意義をしっかりと理解している」、Bが「きまりの意義のある程度理解している」と記載したとします。そのようなAとBの違いでは、授業者以外の第三者が、AとBの違いを実感することが出来ません。仮に、誰か第三者に対して、生徒のワークシートの採点を依頼したとして、その第三者が採点をすんなりできるくらい、だれが読んでも分かりやすいAとBの違いを書いて欲しいと思います。

また、Cは単にBよりも悪い生徒の状態を書くのではなく、Bレベルが出来ていない生徒にどのようにサポートするのかについて、具体的な手立てを書くようにしてください。（ここもよく勘違いする人がいます。）

【過去の履修者の例を載せます】

9. 本時の指導 (5/6)			
(1) 目標			
需要量と供給量が景気変動・インフレーション・デフレーションとどのように関係しているのかについて理解する。			
(2) 実現状況を判断する際の、具体的な生徒の姿			
	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C) と判断した生徒への具体的な手だて
知	(B) だけではなく、インフレーション・デフレーションと景気変動を関連付けて説明をすることができる。	景気変動を「需要量」「供給量」という言葉、インフレーションとデフレーションを「需要量」「供給量」「物価」という言葉を使って説明することができる。	景気変動・インフレーション・デフレーションが起こる仕組みを説明できない生徒については、ワークシートで授業内容を振り返りながら、ポイントを整理できるよう机間指導する。

## ○本時の指導の「(3)展開」の全体のフォーマットについて

【該当箇所】			
(3) 展開			
過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準(観点・方法)
導入 (分)	主発問を記入		
展開 (分)			
まとめ (分)			☑ 評価規準・・・ (方法) (手だて)・・・

### 【解説】

本時の目標に基づく1時間の授業の流れを書く箇所となっています。導入・展開・まとめから構成されており、それぞれの予想時間を書く必要があります。

また、導入と展開の間に、主発問を記入してください。「主発問を記入」の表記は消してください。主発問とは、この1時間のメインテーマであり、1時間で追究していく問いです。このことから分かるように、導入では、いかにうまく主発問を提示できるか、主発問を提示して展開に入れるか、が重要になります。一般的に、導入は10分以内に終わらせる方が良いと思います。

また、本時案における授業の詳細は、「学習活動」「指導上の留意点」「評価規準(観点・方法)」の3つに分けて構成されています。

### 【コラム】社会科・公民科教育法1(2019年春)の授業内容との繋がり

#### ～なぜ、「主発問」が必要なのか?～

それは、次のような授業スタイルが良いという風に前提視されているからです。

- ① 授業の導入で、学習内容に興味湧くような工夫し、1時間を通して追究するようなテーマを提示する。
- ② 授業の展開では、主発問を探究し、解き明かすような流れにする。
- ③ 授業のまとめでは、主発問にも答えられて、且つ、学習内容の「永続的な理解」の内容を説明できるような終わり方にする。

このような授業スタイルが常に良いかどうかは分かりませんが、少なくとも、主発問をうまく提示できれば、学びの目的意識や納得感を持ちやすくなると思います。この授業で何度も言ってきたように、学習者が自ら疑問をもって学ぶためにも、生徒が学びたいと思えるような、「問い」を立て、共有することが重要だと思います。

## ○本時案の「学習活動」について

【該当箇所】			
(3) 展開			
過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準(観点・方法)
導入 (分)	主発問を記入		
展開 (分)			
まとめ (分)			☑ 評価規準・・・ (方法) (手だて)・・・

### 【解説】

基本的には、教師の発問や説明を「T」で、生徒の発言や行動を「S」で表現します。教師の発問を書く際には、必ず予想した生徒の反応・発言を複数書くようにしてください。生徒の発言や反応は、あくまでも皆さんの予想です。そのため、現実の授業では、予想通りの発言が返ってこないかもしれません。ですが、そういった予想をくり返すことで、多くの生徒が発言しやすい発問の特性を皆さんなりに予想できるようになってくると思います。

逆に言えば、全く生徒の発言が予想できない発問は、生徒が答えることが困難な発問となっている可

**可能性があります**(教師が発言して、1人で説明するような授業になってしまう可能性があります)。

TとSで書く方法以外に、**発問1** **発問2**などと主要な発問を表記して示す書き方もあります。また、**発問1** **発問2**と記載した際にも、その後に、生徒の発言・反応の予想を列挙してください。TS方式を選ぶか、**発問1**の方式を採るかについては、学習指導案を書き進める中で、書きやすい方法を選んでもらえればと思います。

その他、発問ではなくても、指示や説明をする際の内容はこの欄に書いてください。さらに、大まかな学習活動の流れについてもこの欄に書いてください。

「8. 単元の指導・評価計画」の「学習活動」でも説明しましたが、ここで書くのは、誰が見ても分かるような発問や説明、指示などです。

### 【コラム】社会科・公民科教育法1(2019年春)の授業内容との繋がり

#### ～なぜ、生徒の発言・反応を予測する必要があるのか～

それは、前提として、教師がひたすら話す講義形式の授業ではなく、生徒と話のやり取りをしながら進めて行く授業が良いとされているからだだと思います。いわば生徒との「対話」が授業内でも必要となります。

第2回の模擬授業で体験したり、第4～6回の社会科主題史での授業記録などを見て分かるように、生徒からみて、答えやすい、発言しやすい問いを教師側が発する必要があります。知識量を比べるような発問では、生徒も答えにくい心境になる(間違ったら嫌だから答えないという気持ちになる)ということは、皆さんの経験でもわかるでしょう。誰でも思ったことを話して良い雰囲気や発問、すなわち対話を促す発問をするために、生徒の反応を想定する必要があります。

また、「生徒観」のところでも説明しましたが、生徒の「知のネットワーク化」を進め、深い学びを促す意味でも、生徒の既有知識や、そこから想定される反応を把握していることは非常に大事になります。

世の中には、教師が話したり、板書に書く内容をひたすら列挙するような、学習指導案のスタイルも存在します。ですが、この社会科・公民科教育法の授業では、そのような形はとらず、授業で教師と生徒が対話ができるように、授業の導入を構成できるようにしてもらいたいと思います。

### 〇本時案の「指導上の留意点」について

【該当箇所】		
(3) 展開		
過程	学習活動	指導上の留意点
導入 (分)	主発問を記入	
展開 (分)		
まとめ (分)		思 評価規準・・・ (方法) (手だて)・・・

#### 【解説】

誰が見ても分かるような発問や説明、指示は「学習活動」に書きますが、その他に、実践する際に起こりうるような場面を想定した留意事項は、「指導上の留意点」に書いてください。

学習指導案は第三者に授業の設計図や想定を説明したり、理解してもらうために書くものです。そのため、「学習活動」の欄だけでは授業の展開がイメージしにくかったり、分かりにくい箇所があれば、**ぜひ、この「指導上の留意点」を使って説明をして欲しい**と思います。

また、授業の構成を考える上で、提示資料や配布資料を出すタイミングを考えることになると思います。この「指導上の留意点」には、どのような提示資料や配布資料を出すのかについて、発問などのタイミングと対応させながら、書くようにしてください。

## 【コラム】社会科・公民科教育法 1(2019 年春)の授業内容との繋がり

### ～なぜ、読み取る資料が必要なのか？～

社会科・公民科教育法の授業では、ワークシート以外に、提示資料か配布資料の作成を義務付けています。それはなぜなのか。その理由は、先にも書きましたが、教師と生徒が対話的な授業構成を作ってほしいと考えるためです。そして、対話を促すためには、生徒からみて、答えやすい、発言しやすい問いを教師側が発する必要がある。

そのような状況を設定するためには、生徒が解釈したり、感想を述べやすい写真、グラフ、図表、史料などなどの、読み取り可能な資料を教師が提示して、生徒に考えて発言してもらうのが 1 番王道なやり方だと思います。そのため、皆さんが模擬授業をする際にも、何らかの資料を提示してもらい、生徒に発問するような場面を作ってもらいたいと思います。

社会科の先生方の勉強会に参加すると「社会科授業において資料は命」という言葉をよく耳にします。ぜひ、気合いの入った資料・教材を作ってください。

## ○本時案の「評価規準(観点・方法)」について

【該当箇所】			
(3) 展開			
過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準(観点・方法)
導入 (分)	主発問を記入		
展開 (分)			
まとめ (分)			思評価規準・・・ (方法) (手立て)・・・

### 【解説】

本時の授業に割り当てられている評価観点を前提とし、その評価の規準をどのような方法で、どのようにして評価するのかを具体的に記載して欲しいと思います。

例えば、生徒の発言で評価するのか、グループワークの発表で評価するのか、生徒のワークシートで評価するなどです。その他、何ができていればその評価観点として十分なのかについても説明してほしいと思います。

また、当然のことですが、ここで書いた評価規準の観点や方法は、授業自体の学習活動の内容と整合性が取れている必要があります。例えば、評価規準では、「生徒の発表内容に基づいて評価をする」と記載されているのに、学習活動の内容を見ても、生徒が発表する場面がない、といった状況では不自然です。評価方法と学習活動は関連づけて作ってください。

また、評価の規準に関しては、「8. 単元の指導・評価計画」の「評価規準」の内容や、「実現状況を判断する際の、具体的な生徒の姿」を意識して、整合性のとれる内容にするようにしてください。本時に割り当てた評価観点と違う観点で評価をしている、といった状況はあってはいけません。その上で、「実現状況を判断する際の、具体的な生徒の姿」で書いている内容と全く乖離した評価の内容になっている場合も不自然だと思います。

【過去の履修者の例を載せます】

<p><b>発問5</b>：皆が暮らすこの地域において、何か一つ改善することができるとしたら、どのような意見があるか？そのためにはどのようなことをしていくべきか？</p> <p>S：ごみがカラスに散らかされている問題で自治会を中心に大きなごみ箱を設置するようにしていく、地域の人たちが使いやすい公園にスポーツができる広場をつくるために、地域のスポーツチームが集まって意見を役所に出す</p>	<p>個人で考え、グループで共有し、数人に意見を発表させる</p>	<p><b>思</b>地域社会における課題を見出し、地域住民の一員としてその解決策について、既習事項を踏まえて記述し、発表している。          &lt;方法&gt;ワークシートの記述、発表の内容          &lt;手立て&gt;          机間指導を通して、地域の実情から課題を見出し、既習事項を踏まえて考察できるように指導する。</p>
---	-----------------------------------	---

○最後に

学習指導案を書くにあたり、色々と気を付けるべき点が多くて、はじめのうちは大変だと思います。ですが、慣れてきたらすぐ書けるようになると思います。

重要なのは、学習指導案を書く際に気を付けるべき点は、以下の二点ではないかと思います。

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学習指導案に書くそれぞれの内容をバラバラなものとして捉えるのではなく、関連する一連の内容だと捉えること。</li> <li>② 「学習指導案を書く」という行為自体が、自分の授業構想を深めるために有益な機会だと実感すること</li> </ol> |
|--|

特に②に関しては、私自身が、そう実感しています。学習指導案を本気で書けば、自分の授業観や授業構想、導入の工夫などと自然と向き合わざる得なくなると思います。同時にやりがいのある活動になると思います。

逆に、形式的なもの・些末な技術的なものとしては決して捉えないで欲しいと思います。繰り返しになってしまいますが、「指示されたから書く」よりかは「これって書く意味あるの？」と疑って質問してくれる方が何倍も良いと思います。

ぜひ、これを機会に、納得感をもって学習指導案の作成に臨んでください。



7. 単元の評価規準

評価の観点	評価規準
社会的事象への 関心・意欲・態度	
社会的な 思考・判断・表現	
資料活用の技能	
社会的事象についての 知識・理解	

8. 単元の指導・評価計画（○時間扱い）

時	ねらい	学習活動	関	思	技	知	評価規準
1 本 時				○			思評価規準・・・
2							
3							

9. 本時の指導（○/○）

(1) 目標

(2) 実現状況を判断する際の、具体的な生徒の姿

	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C) と判断した 生徒への具体的な手だて
観 点			

(3) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準(観点・方法)
導入 (分)			
主発問を記入			
展開 (分)			
まとめ (分)			<p>思 評価規準・・・</p> <p>(方法)</p> <p>〈手だて〉・・・</p>

## 【参考資料】教材研究報告シート

氏名( )

1. あなたにとって、「社会科の授業を通して、生徒に獲得して欲しい力」とは何ですか？公民的資質の視点と関連付けて、出来る限り具体的に述べて下さい。また、その力を獲得して欲しい理由も書いて下さい。

【社会科の授業を通して、獲得して欲しい力】

【その力が重要だと思う理由】

※第三者が読んでも意味が分かるように、ある程度具体的に書くこと

2. 本時の授業の目標(学習指導案に書いたものを再度書く) (※これは、主発問ではありません。)

※上の「社会科の授業を通して、獲得して欲しい力」を毎時間ダイレクトの育てることはできないかもしれないが、少しだけでも意識した目標であって良いと思います。

※目標の文章は、第三者が読んでも意味が分かるように、ある程度具体的に書くこと

3. 本時の授業内容の内容上の優先事項を明確にして、下記に示してください。

各円の中に書く内容は、キーワードではなく、文章で書くこと (例：〇〇は～～である。)

知っておく価値はあるが、  
優先順位としてはやや低い

現時点において、これらのことを  
知ること・することが重要である

ほとんどの記憶が消えてしまっても、  
これだけは残っていてほしいと思う、  
この授業で本当に教えたいこと

4. この範囲を扱う授業者が読むべきだと思うおすすめ本を二冊紹介してください。その際に、「本の概要」と「授業と関連し得るといったポイント・情報など」について、他の授業者に有益になり得るような形で説明してください。  
(ただ、「授業と関連し得るといったポイント・情報など」に書いたからといって、授業でぜったいに触れないといけない、という意味ではありません)

オススメ本①

【基本情報】 著者名、出版年、タイトル、出版社。(例：著者(出版年)『タイトル』出版社)
【本の概要】(6行程度書くこと)
【授業と関連し得るといったポイント・情報など】(5行程度書くこと)

オススメ本②

【基本情報】 著者名、出版年、タイトル、出版社。(例：著者(出版年)『タイトル』出版社)
【本の概要】(6行程度書くこと)
【授業と関連し得るといったポイント・情報など】(5行程度書くこと)

※この「教材研究報告シート」は、指導案提出日の2日以上前に斉藤までメール送信し、OKを貰うこと(内容不十分だと書き直しを指示します)